

製品についてのお問い合わせは

**お客様相談室 ☎0120-308168**

受付時間：祝日を除く月～金の 9:15～17:00

までご連絡ください。

HFCプレステージジャパン合同会社 〒107-0061 東京都港区北青山3-3-5  
Made in Thailand



- ご使用の際は必ず最後までよく読んで正しくお使いください。
- ヘアカラーはまれに重いアレルギー反応をおこすことがあります。
- ご使用の際は毎回必ず皮膚アレルギー試験（パッチテスト）を行ってください。
- 今までにヘアカラーでかぶれたことのある方は、絶対に使用しないでください。

## 使用上の注意

### 1. 次の方は使用しないでください

- ① 今までに本品に限らずヘアカラーでかぶれたことのある方
- ② 染毛中または直後に、じんま疹（かゆみ、発疹、発赤）あるいは気分の悪さ（息苦しさ、めまい等）を経験したことのある方
- ③ 皮膚アレルギー試験（パッチテスト）の結果、皮膚に異常を感じた方
- ④ 頭皮あるいは皮膚が過敏な状態になっている方（病中、病後の回復期、生理時、妊娠中等）
- ⑤ 頭、顔、首筋に、はれもの、傷、皮膚病がある方
- ⑥ 腎臓病、血液疾患等の既往症がある方
- ⑦ 体調不良の症状が持続する方（微熱、倦怠感、動悸、息切れ、紫斑、出血しやすい、月経等の出血が止まりにくい等）

### 2. 使用前のご注意

- ① 染毛の2日前（48時間前）には次の手順に従って毎回必ず皮膚アレルギー試験（パッチテスト）を行ってください。パッチテストは、染毛剤にかぶれる体質であるかどうかを調べるテストです。テスト部位の観察はテスト液塗布後30分位および48時間後の2回行います。過去に何回も異常なく染毛していた方でも、体質の変化によりかぶれるようになる場合もありますので、毎回必ず行ってください。
  - (a) 使用する薬液を用法に定められた割合で混合し、テスト液を数滴つくります。
  - (b) テスト液ができましたら、腕の内側に10円硬貨大にうすく塗り、自然に乾燥させてください（塗った部分が30分位しても乾かない場合は、ティッシュペーパー等で軽く拭き取ってください）。
  - (c) そのまま触れずに48時間放置します（時間を必ず守ってください）。テスト液を塗ったところは絆創膏等で覆わないでください。
  - (d) 塗布部に発疹、発赤、かゆみ、水疱、刺激等の皮膚の異常があった場合には、手等でこすらないで直ちに洗い落とし、染毛しないでください。途中、48時間以前であっても、同様の皮膚の異常を感じた場合には、直ちにテストを中止し、テスト液を洗い落として染毛しないでください。
  - (e) 48時間経過後、異常がなければ染毛してください。
- ② 頭髪以外には使用しないでください。本品は頭髪用の製品です。
- ③ 眉毛、まつ毛に使用しないでください。薬液が目に入るおそれがあります。
- ④ 顔そり直後は染毛しないでください。皮膚が細かく傷ついているおそれがあり、刺激等を受けやすくなります。
- ⑤ 染毛の前後1週間はパーマントウェーブをかけないでください。髪を傷めたり、色落ちしたりすることがあります。
- ⑥ 染毛中に入浴したり、染める前に髪をぬらしたりしないでください。汗やしずく等で薬液が目に入るおそれがあります。
- ⑦ 薬液が顔、首筋等につかないようにしてください。薬液がついたときは、直ちに水で洗い落とししてください。
- ⑧ 薬液や洗髪時の洗い液が目に入らないようにしてください。目に入ると激しい痛みを生じたり、場合によっては目が損傷（角膜の炎症等）を受けたりすることがあります。万一、目に入ったときは絶対にこすらないで、直ちに水またはぬるま湯で15分以上よく洗い流し、すぐに眼科医の診療を受けてください。
- ⑨ 染毛中に発疹、発赤、はれ、かゆみ、強い刺激等の皮膚の異常やじんま疹、息苦しさ、めまい等の症状が現れた場合には、直ちに薬液をよく洗い流し、すぐに医師の診療を受けてください。
- ⑩ 染毛後に何らかの異常を感じた場合には、必ず医師の診療を受けてください。

### 4. 取り扱い上のご注意

- ① 混合した薬液の残りは効果がなくなります。必ず洗い流して捨ててください。
- ② 混合した薬液は保存しないでください。ガスが発生して容器が破裂するおそれがあり危険です。

### 5. 保管上のご注意

- ① 幼児の手の届かない所に保管してください。誤って飲んだり食べたりすると危険です。
- ② 高温や直射日光をさけて保管してください。

### 6. ヘアカラーによるアレルギーのリスクについて

ヘアカラーによる「かぶれ」は、頭・髪が生え際・顔・首筋などに、かゆみ・はれ・赤み・ブツブツなどの症状がでることをいい、かゆみしか感じないこともあります。かぶれと気づかず、又はかぶれの症状が軽いために使用を繰り返したり、症状が治まった後に再使用したりすると、次第に症状が重くなり、まれに「アナフィラキシー」という重篤なアレルギー反応（全身じんま疹、呼吸困難など）等が突然起こることがあり危険です。このようなかぶれの症状を経験された方は、絶対に使用しないでください。

### 3. 使用時のご注意

- ① 薬液は使用直前に混合し、直ちに使用してください。
- ② 換気の良いところで使用してください。
- ③ 必ず添付の手袋を着用してください。

## 皮膚アレルギー試験（パッチテスト）の手順

皮膚アレルギー試験（パッチテスト）は、ヘアカラーにかぶれる体質であるかどうかを調べるテストです。食品や医薬品等でアレルギー反応をおこす人がいるように、まれにヘアカラーでアレルギー反応をおこす人がいます。また、他のアレルギーと同様に、過去に何回も染毛した方でも、体質の変化等により、かぶれるようになる場合もあります。染毛のたびに毎回必ず皮膚アレルギー試験を行ってください。

染毛の2日前（48時間前）には次の手順に従って  
毎回必ず皮膚アレルギー試験（パッチテスト）を行ってください。

### 準備するもの

箱の中に入っているもの

ご自分で用意いただくもの



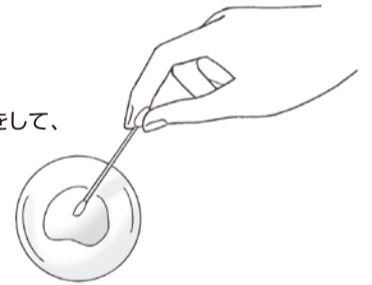
① A剤 ② B剤 ③ エッセンス ④ 小皿 ⑤ 綿棒

### 1 テスト液を少量つくります

A剤とB剤を1対1の割合で出し、エッセンスを1～2滴加えて混ぜ、テスト液をつくります。

1. A剤のキャップをはずし、キャップ頭部の突起でチューブの口を開け、ごく少量を小皿に出します。
2. B剤を、A剤と同じ量だけ出します。
3. エッセンスを1～2滴加えます。
4. 綿棒でよく混ぜ合わせます。

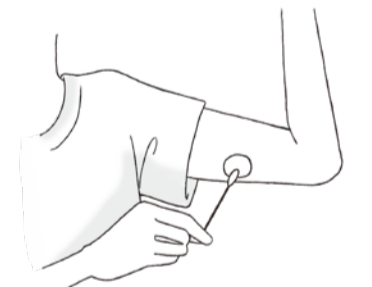
- ※ A剤、B剤、エッセンスともによくキャップをして、しっかりと締めてください。
- ※ パッチテストに必要な分量だけを、小皿で混合してください。



### 2 テスト液をぬります

テスト液ができましたら、腕の内側に綿棒で10円硬貨大にうすく塗り、自然に乾燥させます。

- ※ 塗った部分が30分位しても乾かない場合は、ティッシュペーパー等で軽く拭き取ってください。



### 3 48時間放置します

そのまま触れずに48時間放置します。

- ※ 放置時間は必ず守ってください。
- ※ テスト液を塗ったところは絆創膏等で覆わないでください。

### 4 テスト部位を確認してください

塗布後30分位および48時間後の2回は必ずテスト部位の確認を行ってください。そのとき、塗布部に発疹、発赤、かゆみ、水疱、刺激等の皮膚の異常があった場合には、手等でこすらないで直ちに洗い落とし、染毛はしないでください。途中、48時間以前であっても同様の皮膚の異常を感じた場合には、直ちにテストを中止し、テスト液を洗い落として染毛はしないでください。

### 5 異常がなければヘアカラーを使用します

48時間経過後、異常がなければ、すぐに染毛をしてください。

皮膚アレルギー試験（パッチテスト）の結果、万一異常があった場合は皮膚科専門医等の診察を受けてください。また、製品については

HFCプレステージジャパン合同会社

**お客様相談室 ☎0120-308168**

までご連絡ください。

！  
ご注意  
ヘアカラー前の  
留意点

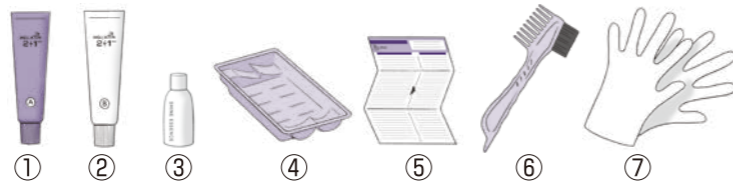
※特に髪の毛の汚れがひどいときや、整髪料、着色料(カラスプレー等)を多めにつけているときは前日にシャンプーしてください。それ以外の場合はシャンプーの必要はありません。  
※メガネ、コンタクトレンズ、イヤリング、ネックレス、ヘアピン等は外してください。※すでに暗く染めている髪を明るく染め直すことは困難です。※金属製のクシ、ヘアピン、ヘアクリップ等は使用しないでください。※乾いた手で添付の手袋をお使いください。濡れていると手が入りにくくなります。

01 準備をします

必要なものの確認

箱の中に入っているもの

- ① A剤(カラーベース)
- ② B剤(デベロッパ)
- ③ エッセンス
- ④ 混合用トレイ
- ⑤ 使用説明書
- ⑥ コームブラシ
- ⑦ 手袋



ご自分で用意していただくもの

- ① 新聞紙等の敷物
- ② ケープ
- ③ タオル
- ④ 油性クリーム(額、生え際等に使用)
- ⑤ ティッシュペーパー
- ⑥ 鏡
- ⑦ タイマー
- ⑧ 輪ゴム



始める前に

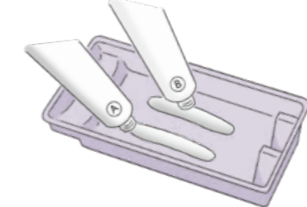
- ※「使用上の注意」をお読みになりましたか?
- ※皮膚アレルギー試験(パッチテスト)はお済みですか?
- ※周囲に新聞紙やビニール等を敷いてください。汚れてもさしつかえない前開きの衣服に着替え、ケープやタオル等をかけてください。(衣類や床、壁等に液がつくと落ちません。)
- ※肌に薬液がついて時間がたつと落ちにくくなるので、あらかじめ油性クリームを耳のまわり、額等の髪の毛の生え際にやや広めにつけてください。ただし、クリームが髪につくと、染まりにくくなりますのでご注意ください。



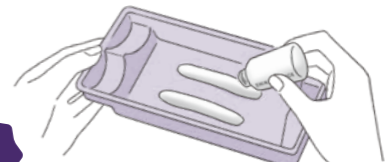
02 混合クリームをつくります

混合クリームは使用直前につくります。

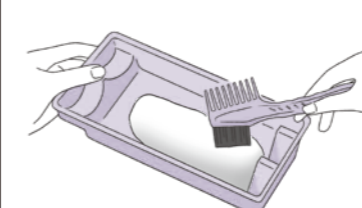
- 1 A剤のキャップをはずし、2 A剤とB剤を必要な量(同じ長さ)だけトレイに出します。



- 3 エッセンスを加えます。A剤とB剤を全量使用しない場合は、使用される量に合わせてエッセンスの量も調整してください(ボトル側面の目盛りは1/3量の目安です)。



- 4 コームブラシのブラシの方で十分に混ぜてください。
- 5 手袋をはめ、輪ゴムでとめます。



！  
ご注意

- ※使用時のキャップは、しっかりと締めてください。
- ※チューブから出したA剤の色は仕上がりの色ではありません。
- ※混合クリームの色は、仕上がりのカラーとは異なります。
- ※ヘアカラーのA剤は空気に触れると変色するため、部分的に茶色や黒色になっている場合がありますが、仕上がりに影響はありません。

03 乾いた髪に混合クリームをムラなく塗ります

美しい髪色に仕上げるために、10~15分以内を目安として塗り終えてください。それ以上時間がたつと染毛効果が弱くなります。目に入らないように注意してください。

1 混合クリームをコームブラシ(ブラシ側)にとり、白髪が目立つ部分から、根元部分にたっぷり塗ります。

塗布する順番

① 生え際・前頭部

混合クリームをコームブラシのブラシの方で根元に塗り、前頭部の根元全体に塗っていきます。

さらに、中間、毛先の順序で混合クリームをおぎないながらつけていきます。

Point

コームブラシの柄の先を使って髪を少量ずつ分けとりましょう。(分けとる幅2cm位)

② 頭頂部

頭頂部全体にも根元、中間、毛先の順序で混合クリームをおぎないながらつけていきます。

③ 後頭部

後頭部の髪を少量ずつ分け取り、①と同じ手順で、根元、中間、毛先と混合クリームをつけてください。

2 ムラなく全体になじませます。

クシのほうで髪全体によくなじませます。地肌を傷つけないように注意してください。

3 放置します。

放置時間 20~30分

※ たくて硬い髪、および室温が低い場合(15℃以下)は30分放置することをおすすめします。

髪全体の染め方

部分染めの方法

！  
ご注意

新しく伸びた部分の染毛(リタッチ)の場合も必ず皮膚アレルギー試験(パッチテスト)を行ってください。

新しく伸びた根元

1 新しく伸びてきた根元の部分に、混合クリームをたっぷり塗り、なじませます。

2 放置します。  
※ 白髪の量が多い場合、25分間おいてください。

放置時間 15~20分

いつもきれいな状態を保つためには6~8週間に1度の全体染め、2~3週間に1度の部分染めをおすすめします。

04 洗い流します

※ 目に入らないように注意してください。

放置時間が過ぎたら、すすぎ湯にヘアカラーの色が出なくなるまでよくすすぎ、シャンプーとコンディショナーで仕上げてください。

！  
ご注意

※ヘアカラー中に頭皮等に異常を感じた時は、必ずすぐに洗い流してください。※肌に混合クリームがついた場合はすぐにティッシュペーパーで拭き取ってください。完全に落ちていなくても、数日で自然に落ちます。※肌を強くこすると皮膚をいためる原因となりますのでご注意ください。※1度混ぜたクリームは次回の染毛に再使用できませんので、残った場合は必ず捨ててください。※次回のご使用の際、A剤の先端が黒くなっていることもありますが、染毛効果に影響はありません。※複数回に分けて使用されるときは、使用後のトレイ、コームブラシ、手袋等はよく洗って保管してください。また、クリームの残っているチューブやエッセンスはキャップをしっかり締め、高温の場所を避けて、幼児の手の届かないところに保管してください。